

朝鮮半島有事における軍事作戦の様相

軍事・情報戦略研究所長（軍事アナリスト）

西村金一

今回、以下の要領で説明します。（この公開資料は詳細を省略しています）

第1 近年、北朝鮮軍と米韓軍の兵器の質に大きな開きが出てきた。北朝鮮の兵器は、ほとんど50年前のものです。

最初に、質の差がどのような戦闘になるかを検証する。

第2 朝鮮半島有事における軍事作戦のシナリオを列挙する。

今後、以下のことが原因で、朝鮮半島で紛争が生起する可能性がある

これまで、以下の2つが想定されていた。（北朝鮮による誤判断）

①北朝鮮が韓国全土に本格侵攻するシナリオ

②北朝鮮がソウルを限定目標として侵攻するシナリオ

近年では、新たに2つ場合が想定される

その1：北朝鮮の核・ミサイル開発で危機が発生する場合

③米軍が斬首作戦やミサイル攻撃を実行した場合、その反撃シナリオ

- ・ソウルを砲やロケットで破壊する

- ・ソウルを限定目標として侵攻する（様相は②と同じ）

その2：南北融和が進展し、韓国が北朝鮮の侵攻を受けやすい状況ができた場合

④韓国内乱や混乱に乗じて韓国に侵攻するシナリオ

- ・ソウルを破壊せずに占領する

- ・韓国全土で内乱や混乱に乗じて、北朝鮮軍による全面侵攻（①とは異なる）

第3 上記のシナリオを軍事作戦の規模の観点から、特徴あるものに整理する。つまり、小規模のものから大規模なもの順で説明する

南北軍の戦力比を含めて、それぞれのシナリオの戦闘様相をイメージする。

第4 シナリオの生起公算を決定する。

第5 最後に、米韓連合軍の対処能力等の現状と課題を簡単に説明する

北朝鮮軍によるソウル占拠イメージ

